

SME Press

2010年度SMFからアートな風のたよりをお届けします。

SMF (Saitama Muse Forum) とは？

SMFは、アートの風を起こす「風車」をシンボルとして結成されました。埼玉県立近代美術館に事務局を置き、美術、建築、音楽、文学、ダンス、パフォーマンス、地域活動など、さまざまなジャンルで活躍するメンバーが集っています。発想豊かに、広く地域を巻き込んだアートプログラムを企画・実現すること。そこで知り合った人の縁をまた次の展開へと繋げていくこと。アートと市民とミュージアムの関係を深め、可能性を広げるネットワーク作りが、SMFの大きな目標です。

「LINK!ミュージアムからアートの風を!!(アート竜巻フェスタ)」と題した2008年度、「SMFアートのわっ-あつまれアートのつむじ風」と題した2009年度(※詳しくはSMFホームページの活動記録をご覧ください)。浦和を中心に、川越、入間、鳩山、川口の、県内5か所を巡って開催したプログラムに参加・ご協力いただいたボランティアは、2年間でなんと1000人を超えます。そこでどんな出会いと交流が生まれていったのでしょうか。そしてこれから吹く風の色と行方は…?

まずはSMFの看板ともいえる「風車プロジェクト」のエピソードを、どうぞご覧ください。(A.O)

アートの種が芽を出すとき

「風車 (かざぐるま) プロジェクト」は、美術家の根岸和弘さんの監修のもと、県内各地に色とりどりの風車の風景を生み出す企画です。大規模かつ、ひとつひとつが手作業である風車の制作と展示を支えるのは、SMFの呼びかけに応じて集まった大勢のボランティアスタッフたち。その1人として、私は2008年から参加しています。埼玉県立近代美術館で風車を1000本一緒に作るボランティアを募集していることを知り、「これは行くしかないでしょ!!」と工作大好きな私は参加しました。

と、ここまでの勢いはよかったのですが、実際美術館に行ってみると知らない人たちの間で戸惑うばかり…。そんな私に根岸さんやボランティアの方々が優しく話しかけてくださり、私はだんだん美術館に行くことが、毎週の楽しみになっていきました。何回か通ううちに、この場はとっても面白い空間だということに気づきました。ボランティアの方々の中には学校の先生から学生、主婦の方までいらっしゃり、ここでは日常生活の中で、一緒に同じことをする機会が少ない立場の人が共同作業をしていたのです。「風車を1000本作る」という目標の下、一所懸命風車を作っていく姿が、とてもいきいきしていたことが忘れられません。そんな元気な皆さんと作った風車は最終的には、1500本を超えました。

こうしてできた風車でアートの風を起こそうと、県内5か所を回った「アート竜巻フェスタ」では鳩山会場でのことを印象深く覚えていました。

2008年9月、東京電機大学鳩山キャンパスで風車の展示が行われました。他の大学に行く機会なんて滅多にないので、私はちょっとわくわくしていました。この時の展示会場はシャープな建物に囲まれた芝生の中庭でした。

そんな雰囲気のある会場でサクッ、サクッと大勢で風車を地面に垂直にたてていました。ふと、誰かが「なんか植えているみた



いだね。」と言いました。その言葉を聞いて、ふっと前を向くと、目の前にはたくさんの人が1本1本丁寧に、大事に風車を植えている光景がありました。みんな、種を蒔いている。

「植える」という言葉が発せられた瞬間、風車に命が吹き込まれました。風車が種になり、大輪の花を咲かせ、風を運ぶ。それまでは風車を展示して、見て終わりだと思っていましたが、実はそうではないことに気づきました。これは始まりであって、ここから埼玉のアートの風が吹くのだと。そんなことを強く感じた出来事でした。

また展示会場が建物に囲まれた空間という特徴の鳩山会場ならではの企画がありました。大学のご厚意により、特別に屋上に上ることができたのです。屋上は普段、学生でも上ることができないそうです。気のせいでしょうか?屋上に上れると聞いた瞬間全

員の目が輝いていたように見えました。禁止されている場所に特別に入れるということ、人の好奇心をかき立てるようです(笑)。隙間から下が見えるちょっと怖い階段を頑張って上ってしまおうと、目の前には広い空と森があり、ずっと向こうにはまちも見えました。その一方、足下にはなんと、1000本の風車が人のかたちを描いていたのです。それはとても幻想的な景色でした。地上で展示している時はまさか人のかたちになっているとは思ってもなかったもので、これはまさに屋上からしか見ることができない。貴重な体験ができました。

昨年11月、前年に蒔いた風の種の芽が出始めました。北浦和公園に今度は4000本もの風車が回りました。公園中を風車が埋め尽くし、まるで違う世界に飛んできたかのようにでした。

そして風は吹き止むことなく、今年も風車がやってきます。「アート楽座@KITAURAWA 風の記念日」では、アートの風がさらに拡がることを祈って、風車の制作ワークショップも行われます。その他にも風車の展示や、不思議な「芽出るカー」の周辺で写真を撮ることが出来ます。2010年7月18日、北浦和公園にぜひ遊びにきてください!! (HS)

S A I T A M A 連携美術館情報

現在 SMF に参加している、県内5つのミュージアムを紹介합니다。

埼玉県立近代美術館

青空を格子で切り取るモダンな建物は、建築家黒川紀章の設計。モネやシャガールなど巨匠の絵画のほか、来館者が自由に座れるグッドデザインの椅子のコレクションも人気。

SMF では2年続けて大規模なアートを開催し、事業設立から現在まで SMF の拠点として機能している。



うらわ美術館

さいたま市ゆかりの美術に触れて地域の色を再発見。しかし何といっても注目すべきは、

1000点を超える「本をめぐるアート」のコレクション。2009年度には SMF 事業として、幼児から高齢者までがコミュニケーションしながら楽しく活動する、多世代交流ワークショップを行った。



川口市立アートギャラリー ATLIA

一面ガラスの明るく開放的な空間で、美術とお茶を楽しむひととき。アーティストを招いてのワークショップも盛ん。

2008年度 SMF では風車の野外展示や創作ダンスの公演、2009年度には、ものづくりのまちの歴史と個性を見直しつつ、美術をツールにした新たな場作りについてのシンポジウムを行った。



川越市立美術館

蔵造り商家を模した小江戸らしい外観。一歩足を踏み入れれば、歴史のまちからアートの世界へタイムトリップ。観光地だけではない川越の魅力がきっと見つかるはず。

2008年度 SMF では風車の野外展示や創作ダンスの公演、2009年度には、市内のアートスポットを巡る散歩会とマップ制作を行った。



入間市博物館 ALIT

地域の歴史・民俗・自然・文化等に関する情報を集め、美術館の機能も併せ持つ。緑一色のどかな景色と豊富な「お茶」の資料が見どころ。

2008年度 SMF では風車の野外展示や創作ダンスおよび大田楽の公演を行い、2009年度には、SMFの活動報告と告知のコーナーを設置した。(A.O)



5750分展Ⅱ—美術教育は生きているか？

「5750分」これは何の数字でしょうか？日数に直すと約4日間のこの数字…実は中学校3年間の美術の時間（1時限50分×時限数115）です。週に1時間（50分）の美術…。とても楽しみにしていた人、息抜きの時間になっていた人、退屈で仕方なかった人も、**あなたが学校で受けた「美術の時間」のことを思い出してください。**

美術はどんな授業でしたか？色の勉強をしたり、友人や郷土の風景を描いたり、粘土で陶器をつくったり…

美術をどんな先生に習いましたか？

変な先生？手先が器用な先生？やけに熱っぽい先生？

美術に、どんな学びがありましたか？

今夏で2回目となる「5750分展」は、埼玉県越谷市にあるアトスペース「KAPL

（コシガヤアートポイント・ラボ）」と埼玉県立近代美術館で行われます。現役美術教員やアーティストがアトリエに入り浸り「5750分」を使い作品を公開制作したり、来場した方と美術教育について語り合ったり、美術教育インタビューを街頭で行ったりすることで「美術教育」を皆で感じ、多角的に考える機会を生み出すものです。是非、お気軽にご参加いただき、共に「美術教育」について考えてみませんか？（SA）

「5750分展Ⅱ—美術教育は生きているか？」詳細

●公開制作+美術教育座談会

会期：8月7日（土）～8月10日（火） 10:00～20:00

会場：KAPL（コシガヤアートポイント・ラボ）

埼玉県越谷市北越谷5-9-27（東武伊勢崎線 北越谷駅 東口下車 徒歩5分）

●5750分展Ⅱ 報告会シンポジウム+アートワークショップ

会期：8月29日（日） 10:30～16:30

会場：埼玉県立近代美術館

埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1

（JR京浜東北線 北浦和駅 下車 徒歩3分）

事前申し込みは不要です。お気軽にお立ち寄りください。

この企画に関するご質問などはコチラ

連絡先：dejivu04@yahoo.co.jp /

090-9318-7780（浅見）



SMF Interview

スズキと話そう①

藤井香

野本翔平

このコーナーは毎回ゲストをお迎えして、アートについて一緒に語り合っていきます。第1回目のゲストは、10月9日に KAWAGUCHI ART FACTORY と川口市立アートギャラリー ATLIA で行うアートイベント「夜会」の企画・出演者である、ダンサーの藤井香さんとパフォーマンス・アーティストの野本翔平さんに来て頂きました。

スズキ：今回、藤井さんから野本さんに共同制作で行うダンス&パフォーマンスのイベント「夜会」をやろうと声をかけたそうですが、どんなきっかけですか？

藤井：これまでの SMF で私たちダンスユニット「転々」は、風車のインスタレーションから受けたものをダンスで表現するというをやってきました。今年もまた次のステップに進んでいけるような新しいことに挑戦してみたいと思っていたところで、去年のシンポジウムの時に会場に展示されていた私達のこれまでの記録写真の中で、野本さんが一番

気に入っていると言ってくれたものが、実は私達にとって一番挑戦して作った作品だった、という事があったんです。分かりづらいし、一般受けしない面もあるけれど、私達にとっては「これは傑作だね」というものだったんです。ダンスとパフォーマンス、表現の分野は違っても、「野本さんと通ずるところがあるのかも」と感じて一緒にやれたら楽しいなって思ったんですよ。自分がチャレンジしたいと思うことと野本さんのやりたいことは似ているのかもれないと。制作する視点が違う人と一緒に関わって、自分にない世界を開きたいと思ったのが、野本さんと仕事をしたいと思ったきっかけですね。

野本：藤井さんから話を貰った時すごく嬉しかったです。なかなかこういう共同制作の機会はなくて、良くも悪くもパフォーマンスは独自性の強い表現分野です。ただ自分が「やりたい」というそのことに意義を見い出します。絵や彫刻、舞台などに比べてその雰囲気強く、表現者自身が自由になれる反面、見た目は非常にエゴイスティックなものもあります。僕は、パフォーマンスを初めて5年になりますが、ふつふつとした自分の心の中を表現したいという感情は、1年ほどでなくなってしまう。そこでパフォーマンスをやめるという選択肌もあったと思いますが、自分は表現との関わりを続けていきたいと

藤井香：幼少より両親のもとでモダンダンスを始め、高校生の頃に表現する楽しさに取り付け、現在に至る。東京創作舞踊団を経て、1998 年彩のくに創作舞踊団を結成。舞踊団公演を行いながら、埼玉県舞踊協会研究部として「コレオグラファーの目」の企画運営を行う。東京新聞全国舞踊コンクール創作部門第一位文部大臣賞（1986）、ローザンヌ新人振付家コンクール・ペジャール・バレエ・ローザンヌ賞（1988）を受賞。

思ったんです。そうなった時に、自分にだけでなく身の周りに目を向けてやっていこうと思い、そしたら自分の表現の場はすべてであると感じはじめ、広がったというか、これからやっていくべきことはあるなと思いました。大多数の中の一人であるという感覚を研ぎ澄ましていくというような意識で制作しています。

藤井：ダンスとパフォーマンスの作り方で決定的に違うんですよ。先ほど野本さんがパフォーマンスは主観性の強いものだと言っていたのですが、私たちダンサーは、まずテーマがあって伝えたいことに沿って考えていくという感じで表現方法を決めていくんです。テーマもとにかくいっぱい掘り下げていくという作業が同時進行であって。私たちのその作りあげていく時の視点と、野本さんが作る時の視点が大きく違うと思うんです。

野本：今回共同で制作している川口で行う「夜会」では、藤井さんが僕の作り方に結構合わせてくれています。僕はパフォーマンスをやる時に、できるだけ何も持たずにその場に行き、その場所で見えるもの、感じるもの、考えるものからその場所とすごく近い関係のある表現をやりたいなっていういつも思っています。すごく対照的な2つの空間を実際に見て、各自が感じたものから全体で共有できるテーマやコンセプトを見出し、軸にしてやっていこうと話しています。

スズキ：ダンスとパフォーマンスでは制作の段階で大きな違いがあるのですね。お互いの挑戦的な要素もあるようですが、お互いが成長できるような関係のお話を聞けてとても刺激を受けました。10月9日の「夜会」も今から楽しみです。貴重なお話ありがとうございました。（M.S）



野本翔平：埼玉県行田市生まれ、専修大学哲学科卒。子供のときからずっと絵を描くことと体を動かすことが好きで、大学2年生の頃にその両方を同時にやりたいと思うようになり、美大生の友人を介してパフォーマンス・アートの分野へ入っていく。たくさんの人たちとの交流を経ながら、アート、美術、芸術を学ぶ。また、地域、ローカル、共同体、コミュニティ等への関心が強まり、そういった要素を含んだ活動を模索している。

おまけ：

せっかく表現者のお2人がそろっているということもあり、「夜」をテーマに自由に表現してもらおうことになりました。

野本さんは藤井ダンススタジオの CD ブースを使い、「ラジオ夜会」のパフォーマンスをし、藤井さんは野本さんの「ラジオ夜会」を聞きながら行う（ダンスではなく!）パフォーマンスをして頂きました。

また、この様子は野本さんの YouTube で公開されています。ぜひチェックしてみてください。

<http://www.youtube.com/watch?v=Ky7sv8Sg7kM>

編集者のつぶやき…

SMF 作文いきます！【S】さり気【M】無敵で【F】ファンタスティック！次、小田さんヨロシク（A.O.）／新入りの自分にとって、SMF は世界を大きく広げてくれる存在です。個性の集合体で感じ。（H.O.）／アート巻フェスタからもう2年もたったなんてー!!! 時間が経つって、こんなに早いものでしたっけ??（H.S.）／「創刊号 出来たと万歳 2号の準備」SMF が体育会系に感じられるこの頃です。（S.A.）／藤井さんのスタジオ兼自宅はすこかった! これからもいろいろな人とたくさん話そうぞー!!（M.S.）

SMFアートボランティア募集

SMFでは各事業に協力していただくボランティアを募集しています。楽しい仲間と一緒に活動してみませんか。登録していただくと、ボランティア保険に加入し各種の情報をお送りするほか、アートボランティア講座（9月19日・11月13日・1月15日の計3回）の優先受講や交流会への参加などの特典があります。ご希望の方は、住所・氏名・連絡先電話番号・fax番号・メールアドレスを明記の上、メール: SMF.vol@artplatform.jp または fax: 048-824-0118で、SMFボランティア登録係まで。ご自由にプリントアウトしてください。

執筆：（A.O.）小野寺茜／（H.O.）小田浩子／（H.S.）齋藤はるか／（S.A.）浅見俊哉／（M.S.）鈴木真里子
編集：SMF広報委員会 発行：「交差する風・織りなす軌」実行委員会
〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内
問い合わせ：SMF.info@artplatform.jp
文化庁 平成22年度美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業